



独立した第三者保証報告書

コスモエネルギーホールディングス株式会社
代表取締役社長 社長執行役員 山田 茂 殿

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社(以下、「SOCOTEC」という。))は、コスモエネルギーホールディングス株式会社(以下、「会社」という。))からの委託に基づき、会社で作成した主題情報(“ESG データ”(期間:2023年4月1日~2024年3月31日))がすべての重要な点において規準に適合しているかについて限定的保証業務を実施した。

1 主題情報と規準

保証対象となる主題情報は、“ESG データ”(期間:2023年4月1日~2024年3月31日)に記載された会社と会社の連結会社(コスモ石油株式会社、コスモ石油マーケティング株式会社、コスモエネルギー開発株式会社のほか、子会社および関連会社を含む)の合計43社における日本及び海外の運営及び活動を対象範囲とする、“GHG 排出量、環境及び社会・安全パフォーマンスデータ(別紙)に関する報告”である。

主題情報を作成する規準は“GHG 排出量算定手順_Ver3”である。

2 経営者の責任

“ESG データ”(期間:2023年4月1日~2024年3月31日)は、会社の経営者によって作成された。

会社の経営者は、そこで行われている主張、陳述及び主張の完全性(限定的保証を提供するために従事してきた主張を含む)、報告書内の全てのデータ及び情報の収集、定量化及び提示ならびに適用した規準、分析及び公表に責任がある。

会社の経営者は、報告プロセスをサポートし、故意または過失によるものであるかどうかにかかわらず、“ESG データ”(期間:2023年4月1日~2024年3月31日)に重大な虚偽記載がないことを保証するように設計された適切な記録及び内部統制を維持する責任がある。

3 保証会社の責任

SOCOTEC の責任は、主題情報がすべての重要な点において規準に準拠して作成されているかどうかについて、限定的保証の結論を表明することにある。

SOCOTEC は、SOCOTEC の定める検証手順及び「JIS Q 14064-3:2023 (ISO14064-3:2019) 温室効果ガスに関する声明書の検証及び妥当性確認のための仕様及び手引」並びに国際監査・保証基準審議会 (IAASB) の国際保証業務基準 (ISAE) 3000 (改訂) 「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」に準拠し、限定的保証業務を実施した。

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務で実施する手続と比べて、その種類、時期、範囲において限定されている。その結果、SOCOTEC が行った限定的保証業務は、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。

SOCOTEC が実施した手続は、不正又は誤謬を問わず重要な虚偽表示のリスクの評価をはじめとして、職業的専門家としての判断に基づいている。SOCOTEC の結論は、会社の内部統制に対して保証を提供するものではない。

SOCOTEC は、限定的保証における結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。



4 保証手続

SOCOTEC が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、以下を含んでいるがそれらに限定されない。

- 会社が主題情報に関連して作成した方針や手続の評価
- 上記方針手続を理解するための会社担当者への質問
- 対象プロジェクトが適格性要件を満たしているかの確認
- 試算による根拠資料との照合、再計算
- 重要な仮定や他のデータに関する根拠資料の入手、照合
- 算定体制と手順の確認、データの収集及び記録管理の実施状況を確認するため、コスモ石油株式会社の千葉製油所及び堺製油所を視察した。

5 独立性と品質管理、力量の声明

SOCOTEC は、「ISO17021 適合性評価-マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項」の認定要求事項に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。又「ISO14065 温室効果ガス-認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項」に従ってマネジメントシステムを確立している。これらは国際監査・保証基準審議会による国際品質管理基準 1 と国際会計士倫理基準審議会による職業会計士の倫理規定における要求を満たすものであり、倫理規則、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の遵守に関する文書化した方針と手続を含む包括的な品質管理システムを維持している。

SOCOTECグループは、検査、試験、認証業務における総合的な第三者機関であり、世界の国々で品質、環境、労働及び情報セキュリティにかかわるマネジメントシステム認証業務やトレーニングサービスを実施しており、環境、社会情報のパフォーマンスデータ及びサステナビリティ報告書保証業務を行っている。SOCOTECは、本保証業務を依頼した組織やその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触がないことを断言する。

本保証業務に携わったチームは、知識や当該産業分野における経験、そして本保証業務に関する力量基準に基づき構成されていることを保証する。

6 報告書の利用

限定的保証業務におけるSOCOTECの責任は、合意した条件に基づいて、会社の経営者にのみ負うものである。従って、目的にかかわらずそれ以外のいかなる個人や組織に関しても責任を負わない。

7 結論

SOCOTECが実施した手続及び入手した証拠に基づいて、主題情報が規準に準拠して作成、開示されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社
執行役員社長 二場 誠吾

Seigo Futaba

2024年6月28日



SOCOTEC

独立した第三者保証報告書 別紙

GHG排出量、環境及び
社会・安全パフォーマンスデータ

表1 Scope別GHG排出量(コスモエネルギーグループ会社43社)

項目			数量	単位	
Scope1 (内訳)	合計		6,886	千t-CO2e	
	CO2排出量		6,867	千t-CO2e	
	CO2を除くGHG排出量		19	千t-CO2e	
Scope2: マーケット基準		合計	226	千t-CO2e	
Scope2: ロケーション基準		合計	236	千t-CO2e	
Scope3 (内訳)	カテゴリー1	購入した製品・サービス	13,525	千t-CO2e	
	カテゴリー2	資本財	226	千t-CO2e	
	カテゴリー3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	623	千t-CO2e	
	カテゴリー4	輸送、配送(上流)	221	千t-CO2e	
	カテゴリー5	事業から出る廃棄物	39	千t-CO2e	
	カテゴリー6	出張	1	千t-CO2e	
	カテゴリー7	雇用者の通勤	5	千t-CO2e	
	カテゴリー9	輸送、配送(下流)	68	千t-CO2e	
	カテゴリー11	販売した製品の使用	56,659	千t-CO2e	
	カテゴリー12	販売した製品の廃棄	4,670	千t-CO2e	
	カテゴリー13	リース資産(下流)	11	千t-CO2e	
		合計		76,048	千t-CO2e

SOCOTEC Certification Japan : この付属書はコスモエネルギーホールディングス株式会社に対して
2024年6月28日に発行した独立した第三者保証報告書の付属書として有効な文書です。

付属書 1 / 7



表2 エネルギー消費量及び原単位(コスモ石油株式会社)

項目	数量	単位
製油所エネルギー消費原単位 ^{※1}	9.03	L-原油/kL
製油所エネルギー消費量	1,451	千kL-原油
製油所GHG排出量原単位 ^{※2}	23.53	kg-CO2e/kL
製油所GHG排出量	3,780	千t-CO2e
輸送部門エネルギー消費原単位:海上	7.58	L-原油/千トンキロ
輸送部門エネルギー消費原単位:陸上	36.44	L-原油/千トンキロ
輸送部門CO2排出量	167,458	t-CO2e

※1、※2 原油処理換算量あたり

表3 エネルギー使用量(コスモエネルギーグループ合計)

項目	数量	単位
熱量換算値	106,557	TJ
原油換算値	2,749	千kL-原油

表4 水資源:取水量・排水量

	項目	数量	単位
石油精製事業	取水量合計	440,339	千t
	工業用水	41,033	千t
	海水	398,892	千t
	井戸水	235	千t
	上水道	179	千t
	排水量合計	435,144	千t
石油化学事業	取水量合計	113,601	千t
	工業用水	19,214	千t
	海水	94,341	千t
	井戸水	28	千t
	上水道	18	千t
	排水量合計	101,229	千t
コスモグループ 合計	取水量合計	554,320	千t
	工業用水	60,482	千t
	海水	493,233	千t
	井戸水	358	千t
	上水道	247	千t
	排水量合計	536,603	千t

表5 水質汚濁負荷量

	項目	数量	単位
石油精製事業	COD負荷量	90.8	t
	窒素負荷量	47.5	t
	りん負荷量	0.9	t
石油化学事業	COD負荷量	63.0	t
	窒素負荷量	30.0	t
	りん負荷量	1.5	t

表6 大気汚染排出量

	項目	数量	単位
石油精製事業	SO _x 排出量	3,165	t
	NO _x 排出量	2,336	t
石油化学事業	SO _x 排出量	582	t
	NO _x 排出量	790	t

表7 大気汚染排出量、水質汚濁負荷量(製油所のみ)

	項目	数量	単位
石油精製事業	SO _x 排出原単位 ^{※3}	19.5	g/kL
	SO _x 排出量	3,127	t
	NO _x 排出原単位 ^{※4}	14.0	g/kL
	NO _x 排出量	2,244	t
	COD負荷原単位 ^{※5}	0.56	g/kL
	COD負荷量	90.8	t

※3、※4、※5 原油処理換算量あたり

SOCOTEC Certification Japan：この付属書はコスモエネルギーホールディングス株式会社に対して
2024年6月28日に発行した独立した第三者保証報告書の付属書として有効な文書です。

付属書 4 / 7

表8 廃棄物(事業別)

項目		数量	単位
石油精製事業	産業廃棄物発生量	78,067	t
	再資源化量	28,738	t
	最終処分量	15	t
石油化学事業	産業廃棄物発生量	76,666	t
	再資源化量	9,164	t
	最終処分量	226	t
コスモグループ 合計	産業廃棄物発生量	155,301	t
	再資源化量	41,816	t
	最終処分量	309	t

表9 PRTR指定物質

項目		数量	単位
石油精製事業	排出量合計	100	t
	移動量合計	522	t
石油化学事業	排出量合計	303	t
	移動量合計	36	t

表10 従業員^{※6}

項目		数量	単位
女性の管理職比率 ^{※7}		7.1	%
女性の採用比率	基幹職採用 ^{※8}	36	%
	学卒新卒採用 ^{※9}	53	%
育児休業取得率	女性	100	%
	男性	62	%

※6 コスモ石油株式会社が雇用元の社員が対象

※7 2024年4月1日時点

※8 2023年4月1日～2024年3月31日採用

※9 2024年4月1日採用

表11 男女間賃金格差^{※10}

項目		数量	単位
男女間賃金格差	全体	76.0	%
	正規社員	76.2	%
	非正規社員	70.6	%

※10 コスモ石油株式会社が雇用元の社員が対象

表12 労働災害(コスモエネルギーグループ会社43社)

項目		数量	単位
業務上労災	休業労災	40	件
	不休業労災	59	件
通勤途上労災	休業労災	10	件
	不休業労災	29	件
合計	休業労災	50	件
	不休業労災	88	件
総合計		138	件
労働災害死亡者数	従業員	0	人
	協力会社社員	0	人